

第21回 職業アレルギー研究会

1990年7月20日(金)～21日(土)

於 熊本・阿蘇観光ホテル

会長 熊本大学医学部 耳鼻咽喉科
教授 石 川 哮

会場案内

会 場 熊本・阿蘇観光ホテル

熊本県阿蘇郡長陽村湯の谷

TEL (09676) 7-0311

FAX (09676) 7-1889

会場へは ○熊本空港 $\xrightarrow[30分]{タクシー}$ 阿蘇観光ホテル

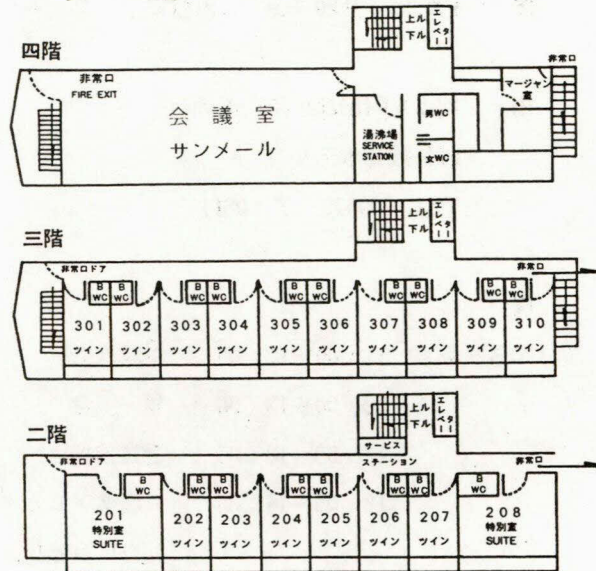
○ JR 熊本駅 $\xrightarrow[70分]{JR}$ JR 赤水駅 $\xrightarrow[10分]{タクシー}$ 阿蘇観光ホテル

タクシー (約50分)

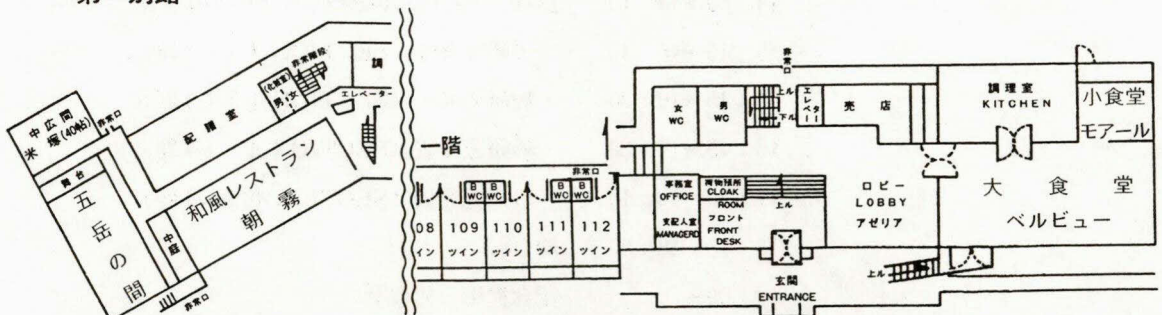


会場内案内

本館



第一別館



研究会場	本館	4F 会議室サンメル
懇親会場	第一別館	2F 五岳の間
世話人会場	本館	1F 小食堂モアール

第21回職業アレルギー研究会実施要領

1. 会 期 1990年7月20(金)～21日(土)

2. 会 場 熊本県阿蘇郡長陽村湯の谷
阿蘇観光ホテル
TEL 09676-7-0311

3. 日 程

7月20日(金)	11:00～12:00	世話人会
	12:00～13:00	昼 食
	13:00～13:05	会長挨拶
	13:05～14:35	「職業アレルギー研究会賞」受賞発表 並びに賞贈呈, 受賞記念講演
	14:50～15:10	講演「インターールをめぐる20年」
	15:10～15:45	一般研究発表(SECTION I)(3題)
	15:45～16:30	一般研究発表(SECTION II)(4題)
	16:45～17:30	一般研究発表(SECTION III)(4題)
	17:30～18:15	一般研究発表(SECTION IV)(4題)
	18:15～18:30	総会
	19:00～	記念撮影, 懇親会
7月21日(土)	8:30～14:00	懇親旅行(解散)

4. 研究会参加の先生方へ

- (1) 演者変更の場合はスライド受付の際, 係へお申出ください。
- (2) 一般演題は講演8分, 討論3分とし, 進行は座長にご一任いただきますが, 時間厳守をお願いします。
- (3) スライドプロジェクターは1台です。スライドは原則として10枚以内とします。
- (4) 研究会当日中に雑誌掲載用最終抄録(1200字以内, 図表2枚以内)および100語以内の英文抄録を提出して下さい。
- (5) 研究会費として各個人5千円, 及び会場整理費1万円, 臨時会員随行時1名につき1万円の会場整理費を当日納入して下さい。
- (6) 研究会当日, この抄録集をご持参下さい。

第21回 職業アレルギー研究会日程

7 月 20 日 (金)	7 月 21 日 (土)
	懇親旅行 (希望者のみ)
	8 : 30 阿蘇観光ホテル スタート
	↓
	草千里ヶ浜
	↓
	火山博物館(火口)
	↓
11 : 00 世 話 人 会	大 観 峰
12 : 00 昼 食	↓
	観光牧場
13 : 00 職業アレルギー研究会賞 受賞発表並びに受賞記念講演	昼食(ジングスカン)
	↓
14 : 35 休 憩	14 : 00 解 散 熊 本 空 港
14 : 50 (講演)	↓
15 : 10 インタールをめぐっての20年 一般演題 7 題 SECTION(Ⅰ)-SECTION(Ⅱ)	15 : 00 JR 熊 本 駅
16 : 30 休 憩	
16 : 45 一般演題 8 題 SECTION(Ⅲ)-SECTION(Ⅳ)	
18 : 15 総 会	
18 : 30 休 憩	
19 : 00 記念撮影, 懇親会	
21 : 00	

世話人会 (11:00~12:00)

開会のあいさつ (13:00~13:05)

会長 石川 哮

職業アレルギー研究会賞受賞発表並びに受賞記念講演 (13:05~14:35)

1. 第3回七條賞受賞記念講演

座長 群馬大学医学部第1内科

小林 節雄

職業アレルギーの変遷

上武呼吸器科内科病院

笛木 隆三

2. 第2回石崎賞受賞記念講演

座長 日本医科大学耳鼻咽喉科

奥田 稔

鼻アレルギーの増加における職業性抗原の意義

県西部浜松医療センター耳鼻咽喉科

宇佐 神篤

休 憩

講演 (14:50~15:10)

インターールをめぐっての20年

藤沢ファイソンス㈱

本岡 弘

一般研究発表

SECTION (I) (15:10~15:45)

座長 群馬大学医療技術短期大学部

中沢 次夫

1. 椎茸栽培者に見られた過敏性肺臓炎の1例

広島大学医学部第2内科

○安松 義晃

石岡 伸一

保澤 総一郎

小山 徹

高橋 浩一

長谷川 健司

山木戸 道郎

2. 羽毛布団製造従事者に発生した職業性過敏性肺臓炎と考えられる1例

国立療養所南福岡病院臨床研究部

○佐藤 圭

荻丸 尚子

横田 欣次

広瀬 隆士

井上 麒夫

長野 準

3. 醤油醸造工に発症した麹 (*Aspergillus oryzae*) による過敏性肺臓炎の1例

名古屋大学第1内科

○土屋 良記

下方 薫

社会保険中京病院呼吸器科

中西 和夫

西脇 敬祐

京都大学胸部疾患研究所内科2

木野 稔也

SECTION (II) (15:45~16:30)

座長 大分大学保健管理センター内科

中村 晋

4. 毒掃丸アレルギーが疑われた気管支喘息の1例

都立駒込病院アレルギー膠原病科

○安藤 純子

高木 祥子

坂田 師道

清沢 治夫

猪熊 茂子

5. モルモット皮毛由来アレルゲンの性状とELISAによるヒト血清中の特異的IgGおよびIgEの検出

財団法人化学品検査協会日田研究所

○武吉 正博

水口 隆一郎

6. 塗装作業に関連し喘息様症状を呈する1症例

大分大学保健管理センター内科

○中村 晋

7. レノバトールによる職業性喘息の1例

同愛記念病院アレルギー呼吸器科

○佐野 靖之

松崎 剛

越野 健

宮本 康文

荒井 康男

休 憩

SECTION (III) (16:45~17:30)

座長 国立病院医療センター呼吸器科 可 部 順三郎

8. 当科で経験した小麦粉喘息の二例

近畿大学医学部第4内科

○田 中 明 岡 本 邦 彦
久 保 裕 一 山 崎 公 世
東 田 有 智 荏 原 順 一
大 石 光 雄 津 谷 泰 夫
中 島 重 徳

9. 小麦粉に起因する職業性喘息の2症例の発症機序に関する検討

岡山大学第2内科

○高 橋 清 宮 下 雄 博
津 田 隆 史 宗 田 良
多 田 慎 也 木 村 郁 郎

10. Baker's Asthma の1例

伊勢崎市民病院

○栗 原 正 英 塚 越 英 男
近 森 忠 徳
群馬大学第1内科 根 本 俊 和 萩 原 修
小 林 節 雄

11. トウゴマ喘息の1例とその抗原性の検討

国立相模原病院

○田 所 憲 治 安 枝 浩
三 田 晴 久 金 子 富志人
秋 山 一 男 信 太 隆 夫
城 智 彦

SECTION (IV) (17:30~18:15)

座長 県立広島病院

12. モノクロナル抗体作製よりみたホヤ主要抗原決定基αの均一性について

県立広島病院

○城 智 彦

広島県

勝 谷 隆 大 塚 正
坪 井 信 治

広島大学工学部

岡 智 小 埜 和 久
重 田 征 子

13. 全例において著効を認めた減感作療法

広島県

○大 塚 正 勝 谷 隆
坪 井 信 次

県立広島病院

城 智 彦

国立相模原病院

安 枝 浩 梶 原 景 一
柳 原 行 義 信 太 隆 夫

14. スターチスによる職業性花粉症と考えられた一例

佐久総合病院アレルギー科

○堀 俊 彦

15. 芳香（金モクセイ）によって誘発される気管支喘息発作について

公立玉名中央病院内科

○江 頭 洋 祐 牛 島 正 人
他



職業アレルギー研究会賞受賞記念講演

1. 第3回七條賞受賞記念講演 13:15～13:55

座長 群馬大学医学部第1内科 小林 節雄

職業アレルギーの変遷

上武呼吸器科内科病院

笛 木 隆 三

人々の生活の場である家庭での主要なアレルギー起因抗原が、ダニであることは言うまでもないが、一方、生産の場である工場や農村では、種々の伝統的起因物質のほかに、日々新たに開発され、導入される物質により、新しい職業アレルギーが発生している。

これらを研究することは、アレルギー疾患や、気管支喘息の発生机序解明に、一般のアレルギー研究を通じての観点とは異った新たな視点を提供する可能性をひめている。今回、七條賞受賞と云う名誉に感謝し、戦後の職業アレルギー研究の歴史を小括し、きたるべき二十一世紀への展望について若干の問題提起をさせていただくことにする。

〈MEMO〉

2. 第2回石崎賞受賞記念講演 13:55～14:35

座長 日本医科大学耳鼻咽喉科 奥田 稔

鼻アレルギーの増加における職業性抗原の意義

県西部浜松医療センター耳鼻咽喉科 宇佐 神 篤

1980年に、I型の職業性気道アレルギーの種類、国勢調査の産業中分類でみた職業性抗原に関連する職業従事者数の変動、鼻アレルギーに占める職業性鼻アレルギーの比率を調べ、次の結果を得た。

1. 職業性鼻アレルギーの抗原は69種類報告されており、年と共に増加した。さらに、非従業者を感作する職業性抗原もあり、職業性抗原の重要性が確認された。
2. 職業性鼻アレルギーは、自験のアレルギー外来における鼻アレルギー総数の約0.3～3.1%を占めた。
3. 抗原感作を受け易い職業に従事している人工は次第に増加していると考えられた。

以上から、職業性鼻アレルギーは近年増加する傾向が示唆され、職業性抗原は鼻アレルギー増加の一因をなすと考えられた。

今回は、その後の追跡調査を含めて近年の鼻アレルギーの増加に職業性抗原がどのような役割を果たしているかを述べる予定である。

〈MEMO〉

一 般 研 究 発 表

SECTION (I) 15:10~15:45 座長 群馬大学医療技術短期大学部 中沢 次夫

1. 椎茸栽培者に見られた過敏性肺臓炎の1例

広島大学医学部第二内科 ○安松 義晃 石岡 伸一 保澤総一郎
小山 徹 高橋 浩一 長谷川健司
山木戸道郎

症例は32歳の女性で、29歳時、椎茸栽培を始めた頃より、椎茸栽培作業の数時間後、咳痰、発熱等の症状が出現した。入院による軽快と退院による再増悪を反復していた。当科入院時、白血球数6200、Eo. 0 % IgG2120. IgA383. IgM181. IgE29 (RIST). CRP 陰性。ツ反陰性。画像診断では両上肺野に散布する粒状影を認め、肺機能では拘束性換気障害と拡散能低下を認めた。椎茸抗原液による皮内反応は陰性であったが、病歴より、椎茸による過敏性肺臓炎を疑った。短時間の椎茸栽培作業により、X線所見、肺機能の増悪、BALF所見で総細胞数の増加、リンパ球、好中球の増加を認め、椎茸栽培作業を増悪の誘因と考えた。退院後、防塵マスクによって再増悪を防止した。

〈MEMO〉

2. 羽毛布団製造従事者に発生した職業性過敏性肺肝臓炎と考えられる1例

国立療養所南福岡病院臨床研究部 ○佐藤 圭, 荃丸 尚子, 横田 欣児
広瀬 隆士, 井上 麒夫, 長野 準

症例は47才の男性で、2年前から寝具会社で、羽毛布団の製造作業に従事していた。数年前までインコ飼育歴があるが最近は飼育していない。1989年10月より羽毛の吹き込み作業に従事した際、夕方から悪寒、38度台の発熱、呼吸困難感が出現するようになり、90年1月当院を受診した。胸部レ線に粒状影が散在するも肺機能上は異常見られなかった。入院中に施行した羽毛の吸入試験は2回とも陰性であったが、外泊の上施行した環境誘発で発熱、呼吸困難感、 SaO_2 、FVC、 $\text{FEV}_{1.0}$ の低下等の所見を確認し、翌日のTBLBでも肉芽腫性の炎症像を確認した。沈降抗体価ではT.cutaneum (IFO1198)、鳩血清に陽性で、羽毛によるHPnの可能性が考えられた。

〈MEMO〉

3. 醤油醸造工に発症した、麴 (*Aspergillus oryzae*) による 過敏性肺臓炎の 1 例

名古屋大学第 1 内科

○土屋 良記, 下方 薫

社会保健中京病院呼吸器科

中西 和夫, 西脇 敬祐

京都大学胸部疾患研究所内科 2

木野 稔也

症例は34歳の男性で、昭和63年1月より醤油醸造業に従事し始めたが、数ヵ月後より夜間になると咳嗽、呼吸困難、発熱を自覚するようになり来院。入院検査にて胸部 X 線上両側にびまん性の小粒状影を認め、血沈亢進、CRP 陽性、 PO_2 の低下を示した。BAL では、総細胞数 ($78 \times 10^4 / ml$)、リンパ球比率 (77%) の増加、CD 4/8 比 (0.35) の低下あり、TBLB では胞隔炎を認めた。沈降抗体は、*Aspergillus oryzae* にのみ陽性を認め、入院にての自然経過で改善あるも、退院後の職場復帰にて再度同様症状の誘発を引き起こした。以上より本症例は、麴 (*Aspergillus oryzae*) による過敏性肺臓炎と診断した。

<MEMO>

4. 毒掃丸アレルギーが疑われた気管支喘息の一例

都立駒込病院アレルギー膠原病科 ○安藤 純子, 高 木祥子, 坂田 師通
清沢 治夫, 猪熊 茂子
信太 隆夫 (国立相模原病院)

症例: 40才男性。1978年より毒掃丸製造にたずさわっている。1985年頃より毒掃丸粉末を吸入すると呼吸苦が出現するようになり, 1988年近医にて気管支喘息と診断をうけ加療していたが症状悪化したため当科受診した。IgE (RIST) 182I/ml。WBC6400/mm³ (eos・2%) MAST30種, Ig-ERAST では原因抗原同定できず。毒掃丸溶解液皮内テストでは9×10/48×36mm と強陽性であった。毒掃丸アレルギーによる気管支喘息が疑われ, IgE-RAST についても検討を加え報告する。

〈MEMO〉

5. モルモット被毛由来アレルゲンの性状と ELISA によるヒト血清中の特異的 IgG および IgE の検出

財団法人化学品検査協会日田研究所 ○武吉 正博, 水口隆一郎

モルモット被毛より抗原を抽出し、モルモット取扱作業者の血清中の特異抗体の検出と抗原に対する特異抗体の反応性について検討した。その結果、モルモット取扱作業者のほとんどに抗原に特異的な IgG が検出され、重篤なモルモットアレルギー保有者には抗原特異的な IgE が検出された。モルモット被毛に由来する抗原は主として 14K~22K dalton の範囲に分布し、それらの組成は週齢にともなって変化した。また、モルモット被毛に対して誘導された IgG は全分子量範囲に同程度の反応性を示したが、IgE は 40K dalton 以上の抗原に対して高い反応性を有していた。

〈MEMO〉

6. 塗装作業に関連し喘息様症状を呈する 1 症例

大分大学保健管理センター内科 中 村 晋

ポリウレタン樹脂工業に伴う MDI, TDI による職業性喘息でアレルギー機序が主役を演ずるか否かはなお確定されていない。一昨年の本研究会でポリウレタン断熱剤による症例を報告したが、今回は塗装作業に関連し喘息様症状を惹起する 1 例を経験したので概要を報告し若干の考察を加える。

症例は38歳の男子。19歳の時塗装工となりアクリルリジン、ウレタンをトルエン、キシレンで溶解し吹きつけたり刷毛で塗ったりする仕事に従事、3年目より従業後喘息様症状をみるようになり、活性炭入り防毒マスクで防禦するが、特に冬に窓を閉めて作業すると悪化すると訴えて来院。皮内反応で陽性のものなく、総 IgE 値432u/ml, CRP (-), 肺機能上混合性障害と胸部 X 線上肺紋理増強を認め非可逆性変化の併存の可能性も考えられた。

〈MEMO〉

7. レノバトールによる職業性喘息の1例

同愛記念病院 アレルギー呼吸器科 ○佐野 靖之, 松崎 剛, 越野 健
宮本 康文, 荒井 康男

症例は25才女性, 既往にアトピー性皮膚炎, 家族歴で祖父が喘息。21才時より都内のエステティックサロン(全身美容室)に勤務。仕事上美容剤レノバトール(ヒマワリの種を含有する)を使用していた。勤務して2年後同一の美容剤を使用して, 手, 顔面, 頸部, に蕁麻疹出現。S63年11月工作中に全身の蕁麻疹, 喘鳴, 呼吸困難出現し, それらの症状は同様の仕事の中にしばしば出現した。H1年7月当科外来受診。検査ではAch吸入誘発閾値1250。IgE698。レノバトールによる皮内反応は 10^{-8} で偽足を伴う強陽性で 10^{-2} にても陽性, 吸入誘発は 10^{-10} にて陽性。ヒマワリの抗原性を疑い後日種子抗原を作成し患者皮内に $10^{-10} \sim 10^{-16}$ 接種した。接種後約10分にて喉頭浮腫, 呼吸困難, 血圧低下などのアナフィラキシー症状を呈し即日入院加療した。以上ヒマワリ種子抗原によると思われる美容剤レノバトールによる職業性喘息の1例を報告した。

<MEMO>

8. 当科で経験した小麦粉喘息の二例

近畿大学医学部第4内科 田中 明, 岡本 邦彦, 久保 裕一
山崎 公世, 東田 有智, 荏原 順一
大石 光雄, 津谷 泰夫, 中島 重徳

小麦粉喘息が職業アレルギー疾患の一つとして注目されているが、当科において二例の小麦粉喘息を経験したので報告する。第一例は43歳の調理師で就業年数は20年であり、第二例は25歳のパン製造業者で就業年数は一年である。二例共皮内反応が陽性であり、吸入誘発試験では、第一例が二相性気道反応を、第二例は遅発型の気道反応を認めた。二例共 DSCG の投与により改善効果が得られて現在も就業を続けている。

〈MEMO〉

9. 小麦粉に起因する職業性喘息の2症例の発症機序に関する検討

岡山大学第2内科 高橋 清, 宮下 雄博, 津田 隆史
宗田 良, 多田 慎也, 木村 郁郎

小麦粉を吸入する職場で発症した職業性喘息の2症例を経験したので, その臨床像と抗原との関連性及び発症機序について検討した。症例1は49歳男で, 製菓店に勤務して約1年後から作業と関連した喘息発作を認めた為転職し, 以後, 6年間は無発作であった。製麺工場に就業し再び喘息発作が出現し小麦粉喘息の疑いで入院となる。症例2は44歳男で, パン工場に勤務し半年後より鼻炎症状, 更に1年後より喘息発作を認めた為入院検査。小麦粉の即時・遅延型皮内反応, IgE 抗体, リンパ球幼若化反応が陽性, 経口負荷でIAR, 吸入負荷でDAR を認め, IgE 以外の非即時型反応の関与が想定された。その他の感作抗原との関連性についても検討中である。

<MEMO>

10. Baker's Asthma の 1 例

伊勢崎市民病院 ○栗原 正英, 塚越 英男, 近藤 忠徳
群馬大学第一内科 根本 俊和, 萩原 修, 小林 節雄

症例：36才，男，パン製造業（材料仕込）家族歴：父親は咳が多かった。既往歴：小学3年の時ペニシリンショックを経験した。現病歴：昭和48年4月より製パン工場で小麦粉，脱脂乳，砂糖，イースト菌などをミキサーで混合する仕事をした。昭和55年に月感冒に罹患するまで無症状であった。しかしその後呼吸困難発作が頻発し悪化するようになり，特に小麦粉の粉塵を吸入すると発作を起こすことに気付き，平成元年7月当科受診。

喘息発作と職業との関連が強く，RAST で小麦，そば，ハシバミ，大豆，米，大麦，ライ麦，インゲン豆，ゴマ，ブラジルナッツ，グルテンと多くの穀類に陽性を示した他，ヤケヒョウヒダニ，HD，ネコ上皮にも陽性を示し，興味ある症例と考えられたので報告する。

〈MEMO〉

11. トウゴマ喘息の1例とその抗原性の検討

国立相模原病院 田所 憲治, 安枝 浩, 三田 晴久
金子富志人, 秋山 一男, 信太 隆夫

症例は、31才 男性、10年前よりトウゴマ (Philippine castor seed) の品質検査業務に従事。同じ階でトウゴマの圧砕、ヒマシ油の抽出を行なっている。5年前より出社後咳嗽、夜に喘鳴出現するようになる。休業時は無症状。既往歴、家族歴特になし。IgE214U/ml、呼吸機能検査：VC 3.63L (88.3%)、FEV₁ 2.54L (77.6L)、アセチルコリン感受性試験：313γ 80%、ヒマシ油香吸入試験：陰性 (99.1%)、皮内試験40種：スギのみ⁺⁺、Open patch test：トウゴマ脱脂抽出液 (CBE) (+)、ヒスタミン遊離試験：CBE 10γ 33%、IgE-RAST：CBE 10.4PRU/ml、RicinA₁₂₀ 9.1PRU/ml、RAST 阻害試験では50%阻害はCBE 2γ、Ricin A₁₂₀75γ。以上よりトウゴマの非油性粉末の吸入が発作の原因であり、非 Ricin 成分がその主抗原と推定された。

〈MEMO〉

12. モノクロナル抗体作製よりみた、ホヤ主要抗原決定基 α の均一性について

県立広島病院 ○城 智彦

広島県 勝谷 隆, 大塚 正, 坪井 信治

広島大学工学部 岡 智, 小埜 和久, 重田 征子

ホヤ抗原 Gi-rep, Ei-M, D III a は分子量, 抗原決定基がそれぞれ106000, α , 22800, α , β , 9980, α , β , γ で, 超遠心的に均質, ゲル濾過で急峻な1峰を形成する。Gi-repにより抗 α 18株, Ei-Mにより抗 α 4株, 抗 β 2株, D III aにより抗 α 4株の MoAb を作製したが, これら抗体の血清型はすべて IgG 型であった。固相化抗 α MoAb カラムを通すと, Gi-rep, Ei-M, D III a はすべて強親和性, 弱親和性の2群に分画されたが, 皮内反応活性, ポリクロナル抗体との結合の面では, 弱親和性分画は強親和性分画と同等の力価を示した。ホヤ抗原より切り出した α 活性をもつ糖鎖が化学構造上不均一であったことも相まって, α 決定基はアレルギー学的になお不均一であると考えられる。

<MEMO>

13. 全例において著効を認めた減感作療法

広島県 ○大塚 正, 勝谷 隆, 坪井 信治
県立広島病院 城 智彦
国立相模原病院 安枝 浩, 梶原 景一, 柳原 行義
 信太 隆夫

ホヤ精製抗原による減感作療法では、適当な分子量をもつ高力価、高濃度の抗原を用いて積極的な治療をすることにより、副作用なく秀れた効果をあげることができ、有効例では遮断抗体として作用する特異 IgG 抗体が産生されることをのべてきた。今回は本症22名に対して Ei-M による治療を行なったところ、一般の気管支喘息を合併し早期に脱落した1例を除く全例において著効をえたので報告する。皮内反応閾値の約100倍量より開始、2週間隔3回、3週間隔4回の注射後作業開始、同間隔の注射を4回続けたのち、1カ月1回の注射とした。作業開始時のみ短期、少量の対症剤を使用した4名があったが、その後は全例対症剤不要で、抗原液7回注射後すでに相当量の特異 IgG 抗体の産生を認めた。

〈MEMO〉

14. スターチスによる職業性花粉症と考えられた一例

佐久総合病院アレルギー科 堀 俊彦

症例は63才男性。12・3年来ハウスでスターチスを主に花卉栽培を行なっている。昭和62年より5月末から7月にかけてスターチス収穫期に一致してくしゃみ・水様鼻汁，眼囲にかゆみが出現。症状はハウスに入ると出現し，出てしばらくすると軽快した。検査ではIgE12単位と低値で，RASTでは開花期が症状に一致するカモガヤの他ダニ，アルテルナリアとも陰性。職業アレルギーを疑い，花が微小で花粉採取が困難なため，花粉そのものを用いて鼻誘発試験を行なったところ，強陽性の反応がみられた。

イソマツ属に入るスターチスは花，茎とも非常に乾いておりドライフラワーに適し，完全開花をまって出荷するため花粉が出やすいものと思われる。あわせて付近の花卉農家を対象としたアンケート調査結果も報告する。

〈MEMO〉

15. 芳香（金モクセイ）によって誘発される気管支喘息発作について

公立玉名中央病院内科

○江頭 洋祐

牛島 正人・他

成人気管支喘息患者には、花や香水の芳香によって喘息発作を誘発する episode を有する患者が少数ながら存在する。われわれは毎年秋、金モクセイが開花する頃になると、その芳香で発作が誘発されたと訴える患者によく遭遇することがある。

われわれはそれが花粉によるアレルギーではなく、芳香が誘因になることに興味を持ち、秋の開花期における発作誘発の実態とそれらの患者群の背景等について臨床的検討を試みた。

嗅覚と気道れん縮との関係については成書等でも明らかでないが、気道過敏性の亢進がある患者では、強い芳香によって自律神経反射を介して過敏反応が起ることが想定される。われわれは金モクセイの生花および類似合成香料による発作誘発テストおよびアストグラフによるデータ等について検討を行ったので、職業上の発作誘発の可能性を含めて報告する。

<MEMO>